

◆「児童生徒に対する性の多様性に係る指導の必要性」について

文責 佐藤文宣

1 生徒へのアンケートから（「性の多様性についての学習」の前に行ったアンケート）

問：「あなたは自分の体の性に違和感を抱いたことがありますか」

※ ア・イは、どの中学校も、これまでに「性の多様性に係る指導」を受けていない段階での調査。

ア

中学生へのアンケート調査から 体の性に違和感を抱いたことがありますか	
【A中学校 200人 H30】	抱いたことがある:6人 わからない:20人
【B中学校 240人 R3】	抱いたことがある:15人 わからない:16人
【C中学校 440人 R3】	抱いたことがある:16人 わからない:39人

○アより

3つの中学校において、自分の性に違和感を抱いた経験があると回答した生徒は若干名いた。割合的には3%~6%であった。

○イより

「わからない」と回答した生徒の中には、ウの学習後の感想のように、悩んだ上に「わからない」と回答した生徒もいることが分かった。

イ

中学生へのアンケート調査から 体の性に違和感を抱いたことがありますか	
【A中学校 200人 H30】	抱いたことがある:6人 わからない:20人
【B中学校 240人 R3】	抱いたことがある:15人 わからない:16人
【C中学校 440人 R3】	抱いたことがある:16人 わからない:39人

ウ

なぜわからないと答えたのか

●私はアンケートの「自分の性に違和感を感じたことはありますか」の欄に「わからない」と書きました。それは私自身、女の子を好きだと感じたことがあるからです。ずっと伸ばしていた髪をショートカットにした時もなんだかしくりきたことを覚えています。

でも自分のことは女だと思えます。いや、どちらでもあると思っています。

このことは友達には言えません。

エ

中学生へのアンケート調査から 体の性に違和感を抱いたことがありますか	
【A中学校 200人 H30】	抱いたことがある:6人 わからない:20人
↓ この数値の違いは？	
【A中学校 200人 R4】	抱いたことがある:19人 わからない:22人

○エより

同じ中学校で調査した4年後のアンケートの比較である。H30とR4の数値の違いは、生徒たちの多くが小学校の時に「性の多様性についての学習」を経験していることによるものと考える。

小学校からの指導により、教員にカミングアウトしている生徒も数名いた。

2 「性の多様性についての学習」後の生徒の感想から (A 中学校 R4)

【性自認に対する悩み】

- ・私は女子だけど、一時期、女の子が好きになったことがあります。その子と付き合ってみたいなと思う時期がありました。今はそんな感情は一切なくなりましたが、女の子が好きだった時期は、「私はキモイのかな？」と悩んでしまいました。今日の学習をして、私はキモくなくなった。みんな違ってみんないいんだと思いました。
- ・私は最近、バイセクシャルなのではないかと思っています。いつか母などに言わないといけなと思っていますけど、なかなか言い出せずにいます。私が親である母にさえ言いづらいのに、みきさん（指導資料の登場人物名）は自分の性について、あかの他人であるたくさんの人に話すことができ本当に尊敬します。言うことも大変だけど、言わずに生活する方がもっと大変だったり辛かったりするのだろうと思いました。

【友達からのカミングアウト】

- ・私の友達にも男の子になりたいと思っている子がいます。その子にそのことを言われたときは、私は家ですごく悩んでしまいました。そして、数日間は、その子とあまり話せませんでした。今日の学習のような性についての学習は必要だと思いました。

【誹謗中傷】

- ・私の友達に女の子でズボンをはいている人がいます。その子と遊んでいたときに、別の学校から入学してきた男子が、「あの子は女子なのに、ズボンをはいているんだけど、キモくね？」と言ってきました。私はその時、何も言えずに話をそらしてしまったことを後悔しています。今日の学習で、きちんと注意できる人になりたいです。

【これからの生活・社会について】

- ・今日の学習で改めて性の多様性について知ることができました。ジェンダーにもあんなにたくさんの種類があることを知り、それだけ人それぞれに心や体の違いがあるのだと思いました。今後、私は差別的な発言に気を付けたいです。そして、みんなと一緒に、誰もが自分らしく過ごせる環境を作っていきたいと思います。
- ・今日の学習を通して思ったことは、LGBTの人が勇気を出してカミングアウトしたことに対して、みんなが「すごいね！」と言う社会はどうなんだろう？と思いました。こんな現状が嫌です。LGBTが当たり前になるといいと思いました。

○感想から、性的マイノリティで悩んでいる生徒がいること、キモいなどの誹謗中傷も見受けられることがうかがえた。

○「性の多様性についての学習」により、新たな気づきや発見があり、誰もが自分らしく生きることができる社会に目を向けた生徒が多くいた。

【「性の多様性についての学習」を行ってよかったと思うこと】

- SOGIについて正しい情報を伝えることができた。
（「あなたはあなたのままでいいんだよ」ということ）
- 「いつでも相談してね」というメッセージを送ることができた。
- いじめ、誹謗中傷を防止することに繋がった。
- 自尊心を高めることに繋がった。
- 学校全体が温かい雰囲気になった。（学校長より）

当事者の苦しみ	
岡山大学ジェンダークリニック受診の 性同一性障害者1,167人への聞き取り	
◆自殺念慮	58.6%
◆自傷・自殺未遂	28.4%
◆不登校	29.4%

※ 『討じ込められた子ども、その心を聴く』
中原幹也著 フクロウ出版より

「性の多様性についての学習」は子どもの命・人権を守る教育である。（佐藤私見）

「平和と人権」 重点目標

- 家族の温かさを基盤として、いろいろな人とのかかわりを通して命の尊さを感じたり、他者への共感性や自分を大切にしたりしようとする態度を育む。
- 「生きること」の尊さを実感させることを通して、他者の個性を尊重し、自己理解を深め、夢や希望をもって将来の生き方を考えていこうとする態度を育てる。

【実態】

- (子どもの実態)
- 各学校によって、性の多様性についての知識、認識に差がある。
- (教師の実態)
- 各学校によって指導方法や指導内容に違いがある。
 - 小中での連携した指導ができていない。

【今日的課題】

- 性の多様性が認められる学校づくり
 - ・正しい知識や理解の習得
 - ・支援体制の確立と相談しやすい環境づくり
- ・人権教育として発達段階に応じた系統的・計画的な指導の実施

中学校

大東小学校

西小学校

阿用小学校

佐世小学校

学習内容

知的理解

性的マイノリティの人権

人権感覚

多様な性の在り方

【多様性の尊重】 「みんなちがって、みんないい」 違いを認め合う、個人の尊厳 ※全ての人権課題解決のために

学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校1・2年	中学校3年生
くすぐすことの大 り、友だちも自分も ようとする態度を	○性のあり方は一人ひとり違 うことに気づき、自他の違い を認め、互いに相手を尊重で きる態度を育てる。	○「多様な性」のあり方に関心 をもち、正しい知識を身に着 けて、よりよい人間関係を築 こうとする態度を育てる。	○性的マイノリティについて 正しく理解し、当事者の思い に共感し、誰もが自分らしく 安心して暮らせる社会につ いて考え、行動しようとする 態度を育てる。	○自他の良 分らしさ 様性だけ 様々な多 りよい社 りをしよ てる。
はなあに」 ていいんだよ」	○3年生 「らしさって何だろう？」 ○4年生 「いろいろな性、いろいろな家族」	○5年生 「いろいろな性ってなんだろう」 ○6年生 「自分らしさのものさし」 「みきという女の子」	○中学1年生 「いろいろな性にもっとくわしく なろう」 ○中学2年生 「僕のもやもや」	○中学3年生 「誰もが自分 について考え
ード とりちがう」 しさが大切」	★キーワード 「性別の固定観念」 「いろいろな家族の形」 「傷つける言葉」	★キーワード 「4つの性」 「自分らしさのものさし」 「自分らしくいられる社会」	★キーワード 「正しい理解と判断」 「痛みや感情への共感」	★キーワ 「全ての 生
好きなものは違う なく、好きなものを選 が大切な命、宝物 を大切に	・性別の固定観念に捉われず、自分 らしくくすぐすことが大切 ・家族にはいろいろな形や幸せが あり、違っていてもいい ・一人ひとりに違いがあることが	・性には、「身体の性」「心の性」「好 きになる性」「表現する性」の4 つの性があり、性のあり方は一 人ひとり違う。 ・自分を含めた誰もが、性のものさ	・性は他人ごとではなく、自分を含 めた全ての人が当事者である ・性的マイノリティをめぐる様々 な人権問題がある ・差別や偏見に捉われない、正しい	・性の多様性 あらゆる「 認め合い、 らしく暮ら が大切。